

2006年11月8日

昭和電線デバイステクノロジー株式会社

制音テクノロジーブランド“QUIESCENT (クワイセント)”の立ち上げ

昭和電線デバイステクノロジー株式会社(東京都港区虎ノ門 1-1-18 取締役社長 渡邊一男)は、制音テクノロジーブランド“QUIESCENT (クワイセント)”を立ち上げ、2006年11月下旬より関連製品・技術サービスの提供を開始します。

騒音対策や音響対策といった音の環境に関する市場においては、既に対策製品や技術が提供されていますが、個別のメーカー、エンジニアリング会社が単独に提供しているケースがほとんどで、製品・技術をトータルで提供している企業は極めて少ない状況にあります。



*QUIESCENT (クワイセント) : 「静止した、静止中の」を意味する英語の形容詞。  
「制音テクノロジー」が快適な音環境を実現します。*

当社は、防振・制振・免振に関するコア技術を活用し、音環境市場においては主に固体伝搬音対策に関する製品を提供してきました。更に、当社固有の低周波吸音材の製品開発・市場調査活動の中で、空気伝搬音対策についても技術を蓄積してまいりました。

これら防振・制振・免振と防音・遮音の技術を再構築・統合し、ユーザーのニーズに最適な製品・技術をワンストップで市場に提供すること、また、当社のコア技術である樹脂開発技術をベースに独自性のある製品を顧客と一体となって開発することで、制音化技術ブランド“QUIESCENT”により新しいポジショニングを構築し、事業拡大を図ります。

事業分野は、これまで産業機器・機械・設備、鉄道・輸送、建築を中心とした市場をターゲットに事業展開してきましたが、新たに自動車、航空機、一般住宅分野への参入も視野に入れています。事業規模は、2007年度で20億円、2010年度で40億円を見込んでいます。

新ブランド“QUIESCENT”の立ち上げに先立ち2006年10月1日に建築不燃低周波吸音材 (TypeB) の販売を開始いたしました。本製品は国土交通省大臣「不燃」認定を取得 (認定番号 NW-1420) し、従来対策が難しかった200Hz以下の低周波音の騒音低減に有効、かつ、既存の工法と比較して、省スペース、短工期での施工等のメリットがあります。

2006年度第3四半期には、建築不燃低周波吸音材に続き、高機能型制振材シヨウダンプ RZH、鉄道軌道用消音キット、耐熱型低周波吸音材等の新製品のリリースを予定しています。

以上

この件に関するお問合せは、下記宛にお願いします。

【広報関係】 昭和電線ホールディングス株式会社  
総務統括部 広報課 [担当：菅井] 03-5532-1911

【技術製品】 昭和電線デバイステクノロジー株式会社  
市場開発室 [担当：北村] 03-3597-7058